

第39回宮崎県子ども・子育て支援会議発言要旨

1 開催日時 令和8年1月30日（金） 11時00分～12時10分

2 開催場所 宮崎県庁防災庁舎51号室

3 出席者 おがわ みゆき かじ き 小川美由紀、くろきひとみ 加治木のぞみ、ささき じしゅう 黒木仁美、さほただのり 佐々木慈舟、しおみつかつや 佐保忠智、なりた 塩満克也、あすか 成田あす香、にしだせいじ 西田誠司、やしきかずひさ 屋敷和久、やまぐち 山口ツトエ、やましたけいこ 山下恵子
(以上五十音順。敬称略。)

4 議事等の概要

(1) 幼保連携型認定こども園の認可について

(2) 第3期宮崎県子ども・子育て支援事業支援計画（追加分）について

【主なやりとり】

(1) 幼保連携型認定こども園の認可について

資料1から3を用い事務局から説明。

その後、内容について質疑応答等が行われた。

(委員) ・ 今回認可を行うわか葉幼稚園は60名から90名に定員を上げるが、行政から要望等はあったのか。

(事務局) ・ (延岡市発言) わか葉幼稚園からの意向があったため、延岡市として判断したものの。

(会長) ・ 都城の五十市保育園においても、受け皿募集を行政が行い、五十市保育園が手を挙げたとのことであるので、延岡市においても同様かと思われる。

(委員) ・ 都城市の五十市保育園について、3歳未満児が30名、3歳以上児が15名となると、3歳未満児が成長すると定員数が足りないと思われるが、これは例えば現存の施設に3歳以上児の15名は加えるようなことか。

- (事務局) ・ (都城市発言) 五十市保育園については、来年度(1年目)は3歳児のみの受入予定となっており、今後4歳、5歳の定員も引き上げていく予定。
- (委員) ・ 資料3(審査結果一覧)、園舎、保育室等の中にある園舎に係る移行特例部分「準耐火構造」が斜線で消してある園があるが、これは移行特例ではないという解釈で良いか。
- (事務局) ・ 原則として、1階建ての建物については、耐火構造の必要はないが、耐火構造としての条件を満たしている園については、「○」をつけている。
- (委員) ・ 今回の認可については、供給が足りない地域の新たな認可などであり、必要に応じ定員数を増やすなど対応が必要であるが、地域によっては需要量が少なくなり、幼児教育保育施設の運営が厳しくなっている地域も一部見受けられる。地域社会のインフラとも捉えられるため、施設側の努力も必要ではあるが、引き続き各自治体などとも協力をしていくべき。
- (会長) ・ 引き続き国や市町村、関係団体などとも連携しながら、取り組んでいただきたい。
- (委員) ・ 現在、子どもに関わる仕事にも従事しているが、改めて、幼少期の育て方などが重要ではないかと認識している。既存の枠組みの中でも良いので、地域全体で子どもやその親を支える気運を醸成すべきだと思われる。

【主なやりとり】

- (2) 第3期宮崎県子ども・子育て支援事業支援計画(追加分)について
資料4を用い事務局から説明。その後、内容について質疑応答等が行われた。
- (会長) ・ 昨年度策定した宮崎県子ども・子育て支援事業支援計画に新たな項目が3つ追加されるとの理解でよろしいか。
- (事務局) ・ お見込みのとおり。